

## ⑫ 実用新案公報 (Y2) 昭 56-12192

⑬ Int.Cl.<sup>3</sup>  
B 65 D 21/02  
1/26  
85/30

識別記号

府内整理番号

101

6564-3 E  
6862-3 E  
7312-3 E

⑭ ⑮ 公告 昭和 56 年(1981)3 月 19 日

(全 3 頁)

1

2

## ⑯ 容器

⑰ 実願 昭 50-1506  
⑲ 出願 昭 49(1974)12 月 24 日  
公開 昭 51-84825  
⑳ 昭 51(1976)7 月 7 日

㉑ 考案者 笠原 秀明  
東京都大田区田園調布南 2 番 15 号  
㉒ 出願人 大日本印刷株式会社  
東京都新宿区市谷加賀町 1 丁目 12 番地  
㉓ 代理人 弁理士 小西 淳美

## ㉔ 実用新案登録請求の範囲

一の容器の周壁を他の容器の周壁内に挿入して積重ねうる容器であつて、容器底部から開口部にまで到る突条を周壁内面に複数本隣接して設けると共にこれらを組として複数組設け、かつ全突条の周壁上における位置は隣接する容器相互間において一致せしめるが、隣接する容器間においては相互に異なる位置の突条につき当該突条を途切れさせ、段部を設けてなる容器。

## 考案の詳細な説明

本考案は積重ねても完全にはまり合うことがないような工夫の施された容器に関するものである。

また、本考案は例えば豆腐の容器に適用すると特に効果のあるものである。

一般に豆腐の容器は合成樹脂を用いて直方体の箱型に成形されており、豆腐等の充填前は一の容器の周壁を他の容器の周壁内に挿入してかなり高く積み上げられている。

このため、豆腐若しくはその原液等を手作業若しくは機械によつて充填する場合、容器同志がかなり密着してはめ合わさつてゐることから、容器を一個毎正確に取り出すことが困難となり、充填

操作に支障を來している。

本考案は上記從来の欠点を容器の構造を改良することによつて解消したものであつて、容器を多数積上げても容器同志が必要以上にはまり合はず、内容物の充填時には正確に一個ずつ取り出しうることのできる容器をここに提供しようとするものである。

すなわち、本考案の特徴とするところは、容器周壁に容器底部から開口部まで至る突条を複数本容器周壁に突出するごとく設け、かつ上記突条のうち互いにはまり合う容器においてはいずれかの突条は段部を有してなることである。

以下図面を用いて本考案の最も好ましい実施例につき詳細な説明を行なう。

15 容器は第1図、第2図で示すようにほぼ直方体状に合成樹脂で成型されており、水平断面が四角形となるような四つの壁 1, 2, 3, 4 からなる周壁、底板 5、周壁上部の容器開口部の周辺に位置するリム 6 を有している。

20 ここに各壁 1, 2, 3, 4 には容器の底部 5 から開口部にまで至る突条 7a, 7b が複数本容器内方に突出する如く設けられている。

これら突条は 3 本ずつ隣接したものが各壁に 3 組若しくは 2 組ずつ設けられており、すべての容器にこうした同じ突条が同位置に設けられている。

ところが、これら突条のうち、積重ねて互いに隣接する容器においては夫々対向しない突条 7b に容器開口部からやや下方に段部 8 を有している。すなわち、積重ねられる容器のうち互いに隣接するもの同志に着目すれば、一方の容器の突条 7 のうち少なくとも各対向壁に 1 個所宛段部 8 を設けるならば他方の容器の突条 7 にはそれ以外の部分に段部 8 を設けるのである。

こうして互いに隣接する容器同志の重なり具合は第3図で示され、上方の容器の突条 7b における段部 8 の下縁が下方の容器の突条 7a の上縁に

3

当接することによって上方容器は下方容器から浮き上がりつておき、容器の壁同志及びリム同志が密着してしまうということがない。

次に、第4図は前記突条7の組の存在位置が異なり、かつ各組内においても段部8の存在位置が異なる容器を例示したものであるが、周壁の全周に突条7をまんべんなく突設し、しかも好ましくは各壁における任意の突条に段部8を設けるとするならば、各壁1,2,3,4における突条の数をa,b,c,d……とすれば  $a \times b \times c \times d$  種類の互いに段部の存在位置が異なる容器が作られ得る。

本実施例は直方形の容器に関するから  $a = c$  、 $b = d$  となつて  $a^2 \times b^2 = a^2 b^2$  種の多種類の容器が作成されうる。

なお、容器としては水平断面が四辺形のもののみならず、その他の多角形若しくは円形のものであつてもよく、また突条の断面形状も円弧のみに限らず、角形等にも成型されうる。

さらに、突条を三本で一組としなくとも二本、四本、五本で一組としてもよい。

その他図において底板5には基盤の目状にリブ9が突設されており、容器底部のすわりの良さを確保している。

本考案は上記の如き構成を具備しており、容器周壁に突条を設け、そのうちの所定のものに、かつ

4

互いに隣接する容器においては異なる位置で段部を設けているから、一の容器の周壁を他の容器の周壁内に挿入して積重ねても、容器同志が完全に密着して内容物の充填時に一個毎取り出すことができなくなることはなく、しかも突条はリブとしての作用もなすから容器の補強にも役立つものである。

また、突条は複数本を隣接して設け、これらを組として複数組を周壁に設けるようにし、その上で段部を容器相互間において異ならしめて配置するから、段部がさほど目立たず、不自然とならないようになることができる。しかも、段部の位置が異なる容器の種類を多く用意することができる。

なお、本考案は前述の実施例に限定されるものではなく、登録請求の範囲内において種々の実施態様をとりうるものである。

#### 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示す。第1図は一つの容器の平面図であり、第2図は正面図である。第3図は一つの容器と他の一つの容器とを積重ねたもの一部切欠断面図である。第4図は突条の配置及び突条の終端の位置が種々異なる容器の平面図である。

1,2,3,4……周壁の各壁、5……底板、6……リム、7a,7b……突条、8……突条7bの段部。

第4図



